

群馬県地域リハビリテーション支援センター発足

2005年の新年を迎えました。群馬県の人口は今年をピークに、総人口が減る中で、高齢者の人口が増加する局面を迎えます。また10年後には、戦後のベビーブームに生を受けた「団塊の世代」が高齢者に仲間入りし、20年後には高齢者人口がピークを迎えると予想されています。

しかしながら、現在、高齢者や障害者の一人一人が必ずしも幸せな生活を送られているわけでありありません。加齢に伴い生活習慣病にかかり、障害者となった方々が、住み慣れた地域で、家族と離れることなく、従来の生活を続けながら、リハビリテーションに専念できる「地域完結型」のリハビリテーションを推進していかなくてはなりません。

このような地域作りをめざして、群馬県は地域リハビリテーション支援事業の一環とし

て、昨年10月、保健医療圏域ごとに地域リハビリテーション広域支援センターを（一部圏域を除く）その後方支援機関として県地域リハビリテーション支援センターを、指定しました。この県支援センターには群馬リハネットが指定され、運営委員を募集して活動を開始しました。講師バンクの設立、研修資料の作成などの支援活動を計画しています。

今後は、広域支援センターと共に、群馬県の地域特性にふさわしい地域リハ連携システムを構築し、私たちの活動が群馬県の高齢者や障害者、しいては県民の皆様のご理解が得られるように努力したいと思っています。

どうかご理解とご支援のほど、お願いいたします。

群馬県地域リハビリテーション支援センター
センター長 酒井保治郎

富岡地域リハビリテーション広域支援センター報告

富岡地域リハビリテーション広域支援センター 講演会開催

平成16年11月23日、南牧村一般住民を対象とした広域支援センター主催の第1回講演会が開催されました。演題は「脳卒中にならないためには、脳卒中になったら」で、広域支援センター（公立七日市病院）主担当の田中聡一講師（医師）によって行われました。参加住民数は75名でしたが、この地域の人口が3千2百人で、講演がウィークデーの昼の時間帯であったことを考えると、参加人数は比較的多く、このテーマに対する住民の関心の高さを示しているものと思われました。

この講演では脳卒中の基礎知識、予防法、脳卒中罹患時の心理的变化、介護保険などの手続きも含んだ退院までの準備事項とそのタイミング、そしてリハビリの基礎知識などについての話がなされました。講演後の、南牧村主催のアンケートでは、ほとんどの方によくわかったと、高い評価をいただきました。中には手元に資料があった方がよかったとの意見もあり、次回以降の参考にさせていただきます。なお、この模様はテレビ中継され、南牧村経営のケーブルテレビで放映されました。

伊勢崎地域リハビリテーション広域支援センター報告

平成 16 年度伊勢崎地域リハビリテーション推進協議会

平成 16 年度 11 月 10 日(水)19:00 から伊勢崎敬愛看護学院 3 階大ホールにおいて、伊勢崎地域リハビリテーション推進協議会が開催されました。伊勢崎圏域の医師会・病院協会・訪問看護ステーション・老人保健施設・在宅

介護支援センター・社会福祉協議会・市町村等の方々にお集まりいただき、「群馬県地域リハ推進事業の概要」説明（山口晴保県地域リハ協議会委員長）協議会設置要項の承認、役員選出、事業計画の承認等が行われました。

第 1 回研修会開催

また、平成 16 年 12 月 4 日(土)14:00 から、やはり伊勢崎敬愛看護学院 3 階大ホールにおいて、伊勢崎福島病院の主管で、同病院の妹尾陽子医師と関係職員の方々を講師として、リレー方式のユニークな研修会が行われました。演題は「高齢者のリハビリテーション～痴呆があっても大丈夫！」で、診療所・病院・施設・各種団体等から多くの方の参加をいただき、地域リハへの関心の高さが窺われました。



桐生地域リハビリテーション広域支援センター報告

平成 16 年度桐生地域リハビリテーション推進協議会

平成 16 年度 桐生地域リハビリテーション推進協議会が、11月15日(月)19時から桐生保健福祉事務所・大会議室にて開かれました。

桐生圏域の医師会、病院、訪問看護ステーション、老人保健施設、介護支援センター、社会福祉協議会、市町村の保健師等の方々、

合計 43 名もの出席があり、地域リハへの関心の高さが窺われました。

内容は「群馬県地域リハ推進事業の説明」（山口晴保県地域リハ協議会委員長）、「協議会設置要項の説明」、「役員選出」、「桐生広域支援センター事業や支援団体・施設との連携の協議と質疑応答」が行われました。

桐生地域リハ広域支援センター第一回研修会報告

桐生地域リハ広域支援センター第一回研修会が、平成 16 年 12 月 18 日(土)10:00~12:00 に希望の家療育病院を会場に開催されました。「骨折・転倒予防に役立つ筋力トレ

ニングプログラムの実際」をテーマに、浅川康吉講師（理学療法士、群馬大学医学部保健学科）により講義と実技が行われ、50 名を超える桐生圏域のリハビリ専門職・リハビリ関

連職の方が参加しました。分かりやすく、実践しやすい明日からすぐに使えるリハビリプログラムの講義と実技でした。浅川講師が実際にリハビリしている中での具体的な注意点や評価するポイントなどを話していただき、

高齢者を対象に現場で働いている参加者には大変勉強になったという声が多く寄せられました。今後もこのような研修会を行ってほしいという要望も参加者から多く寄せられました。

第3回 群馬地域リハビリテーション研究会に参加して

12月11日(土)群馬県社会福祉総合センター大ホールにて、群馬県・群馬リハネットの主催で行われた「群馬地域リハビリテーション研究会」に参加しました。

群馬リハネット矢野亨理事長や宮下智満群馬県理事の挨拶の後、群馬県地域リハビリテーション支援センターや地域リハビリテーション広域支援センターの現状と今年度の活動予定が報告されました。事業が始まって2か月しか経っていませんが、できるところから始めて順次拡大を図っていくという基本方針のように、各支援センターの得意分野を生かした特色ある活動が報告されました。

講演1は特定医療法人慈泉会相澤病院リハビリテーション科統括医長、原寛美先生の「地域リハへつなく脳卒中急性期リハビリテーションへの提言」というテーマで行われました。原先生の講演では、急性期から365日のリハ体制で、生活の場である病棟でリハを行って

いることや、急性期リハが機能回復にいかにか重要であるかということ、歩行を早く獲得させ最短時間で自宅へ帰すことが最良のリハビリであること、充実した訪問リハを行っていることなど、学ぶことの多い講演でした。

講演2はNPO法人「夢の湖舎」理事長、藤原茂先生の「地域リハへつなく脳卒中回復期リハビリテーションへの提言」というテーマでした。患者さんの暮らしをどれだけ意識して専門職としてのサービスを提供できているかを深く考えさせられました。心身機能面ばかりでなく活動そのものを行うことで、心と身体が活性化することが、自己の再発見につながり、人としての生きがいを感じていく過程そのものだと感じました。また、施設内では、いろいろなアイデアで自発性を高め、能力を引き出そうという仕組みがあり、作業療法士はかくあるべきと感服しました。

(編集委員 清水尚子)

訪問リハビリは「しあわせの宅急便」～訪問リハビリのすすめ～

講演会に参加して

11月26日金曜日の夜に、地域リハビリテーション支援プロジェクト主催で群馬大学医学部保健学科ミレニアムホールにおいて開催されました。演者は、(有)在宅ケア研究所所長である理学療法士の平山隆喜先生でした。平山先生はさまざまな疾患の患者様への訪問リハビリを行っているだけでなく、研究や発表・教育も精力的に行っており、「訪問リハビリのスペシャリスト」でした。

訪問リハビリでは患者さんの身体機能だけでなく、「健康」に着目していくことを学びま

した。健康には身体的健康や精神・心理的健康だけでなく、社会的健康があるとのことでした。社会集団からの離脱や人間関係の喪失や役割の喪失などにより社会的健康が保たれないと、閉じこもりが始まり寝かせきりになってしまい最後には寝たきりになってしまうこと、逆に生きがい、やりがい、人生の楽しみが寝たきりを作らないためには重要であることを、ユーモアをたっぷり交えた先生の経験談から感じました。個人的には、訪問リハなのに喫茶店にコーヒーを飲みに行くことで

社会的健康が向上した話を聴いて、先生の人柄と患者様の名古屋人らしさが出ていて、名古屋出身の私には楽しい話でした。先生の「心を動かすと体が動く」とおっしゃった言葉が強く印象に残りました。ターミナルケアにも理学療法士が訪問リハビリで入っており、がん患者さんの家族への生活指導や患者さんのベッドの部屋を変更した環境指導で劇的に患者さんの状態が変わった話を聴き、私が考え

ていた以上に理学療法士にはさまざまな重要な役割があることに驚き、また感動を覚えました。今回の講演会を聴き、訪問リハビリを行う理学療法士には、病院で入院や外来でのリハビリとは異なった、訪問リハビリのプロとしての観察力・判断力を伴ったアセスメントが必要であると痛感しました。

(編集委員 清水尚子)

事務局便り (H16.8 ~ H16.12)

群馬リハネット

平成16年12月現在会員等の状況

- * 加入団体 29団体
- * 賛助会員 団体会員 2団体
個人会員 1名

- 8.11 ニュースレター6号発送
- 12.11 平成16年度第2回理事会
- 12.18 NPO法人日本健康運動指導士会群馬県支部団体会員の申込み

群馬県地域リハビリテーション支援センター

- 9.30 群馬県より群馬県地域リハビリテーション支援センターの指定
- 10.15 各団体へ運営委員の委嘱状発送
- 11.12 平成16年度第1回運営委員会
- 11.16 群馬県より業務受託料受領
- 12.11 第3回群馬地域リハ研究会
群馬県社会福祉総合センター

運営委員募集

県支援センターは、群馬リハネットの加盟団体から推薦された運営委員を中心に、広域支援部、研修部、広報部、調査・研究部、事務局で運営されています。今後の活動を充実するため、運営にご参加いただける方を広く募集しています。この機会に、地域リハの活動にご協力いただける方は、右記の事務局までご連絡下さい。

広域支援センター関係者へのお知らせ

群馬県地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会を、平成17年3月5日(土)に群馬県庁にて13~18時の予定で開催します。各広域支援センターからの報告の他に、熊本県での広域支援センターの活動実績の講演も企画しています。

群馬リハネットニュースレター休刊

県支援センターのニュースレター発行に伴い、しばらくの間休刊させていただきます。

編集後記

茂木徳造県リハセンター所長(当時)と酒井、山口が発起人となり、平成13年9月に群馬リハネットを立ち上げ、丸3年かかって、ようやく県および広域支援センターの指定にこぎ着けました。この間、県でこの事業担当の山田順一氏(保健予防課)、県リハセンターの石井優、奥寺淳子、森田由紀子の諸氏、リハ資源調査や地域リハ推進指針の作成にご協力いただいた大澤誠、山田圭子、町田敬子、阿部真也、他の諸氏、その他多くの方々のご協力により、ここに至ることができました。厚く御礼申し上げます。(山口晴保)

編集デスク

山口晴保 清水尚子
山上徹也 角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター
連絡先

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局
群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@health.gunma-u.ac.jp